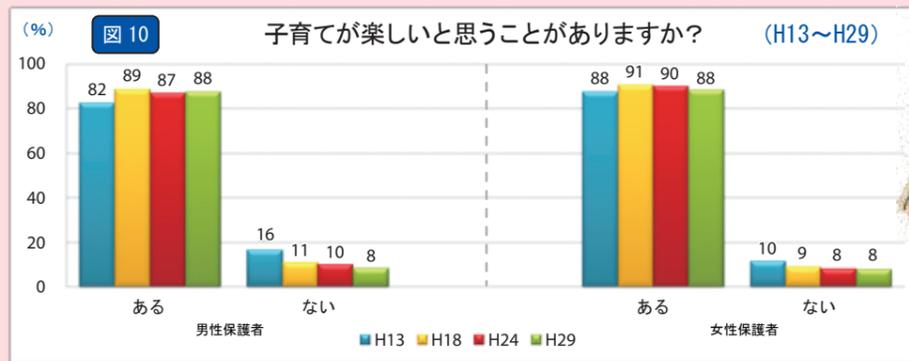
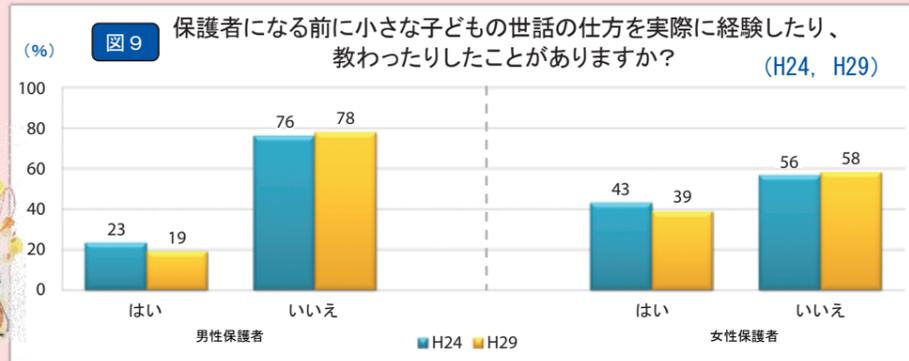


保護者自身が子育てを楽しみながら、子どもの成長を社会全体で支え合いましょう。



◇ 保護者になる前に子どもの世話等を経験したことがある割合が男性・女性保護者ともに前回の調査から4%減少しています。青少年の時期に子育てに触れる機会や体験学習を充実することが望めます。また、今回の調査では男性・女性保護者ともに88%と、大半の保護者が子育てを「楽しい」と感じています。
 子育てを担うのは、保護者だけではありません。子どもを育てることは未来の社会を支える人材を育てることです。子どもの成長を社会全体で支え合い、喜び合いましょう。

一人で悩まず 気軽にアクセス

① HP「ふくおか子育てパーク」
 ～子育てに役立つ情報がいっぱい～
<http://www.kosodate.pref.fukuoka.jp/>

② 子育ての悩みは「メール相談」
 ～先輩ママがお受けします～
 ふくおか子育てパークのコンテンツの相談フォームから受け付けています。

③ 家庭教育相談電話「親・おや電話」
 ～専門の相談員がお受けします～
 電話 092-947-3515
 月曜～土曜 (9:00～17:00)
 ※ただし、センターの休所日、第2月曜日、第4土曜日、祝日・年末年始を除く

編集／発行
福岡県立社会教育総合センター
 糟屋郡篠栗町大字金出 3350-2
 電話 092-947-3512

※この調査の報告書及びダイジェスト版は、福岡県立社会教育総合センターのホームページ (<http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/>) からダウンロードできます。

ダイジェスト版

平成29年度「小学生をもつ保護者の子育てに関する調査」のまとめ
 37年間の推移をふまえ

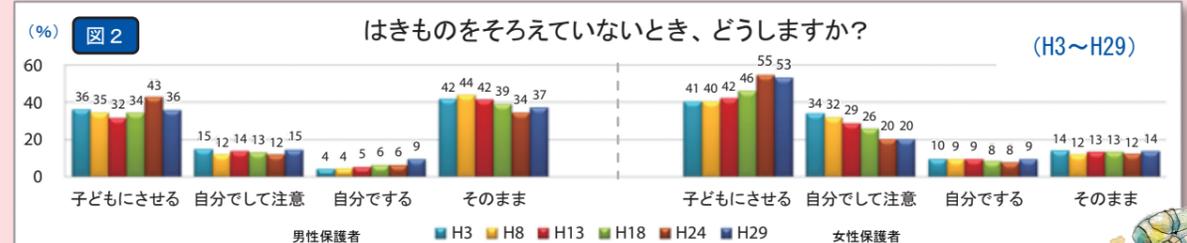
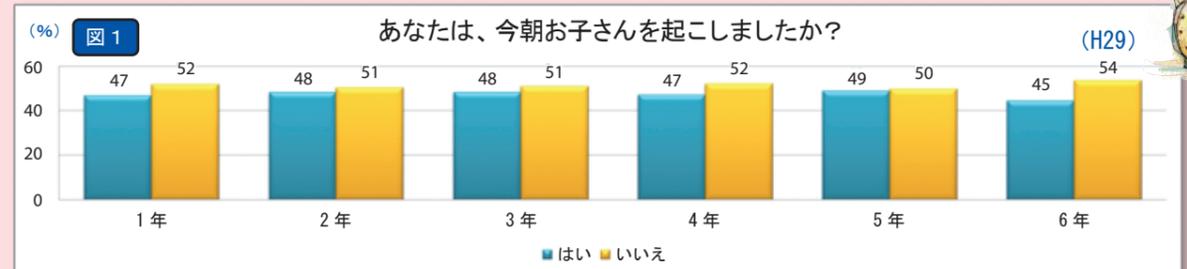
家庭教育についてみんなで考えて 楽しく子育てをしましょう。



福岡県教育委員会では、平成29年度に「小学生をもつ保護者の子育てに関する調査」を実施しました。昭和55年度から概ね5年に1回実施しており、平成3、8、13、18、24年度に続く7回目の調査となります。今回の調査結果や37年間の推移をもとに、現在の保護者の子育ての実態や思いをまとめました。これからの子育てや家庭教育の在り方を探るヒントとして活用していただければ幸いです。

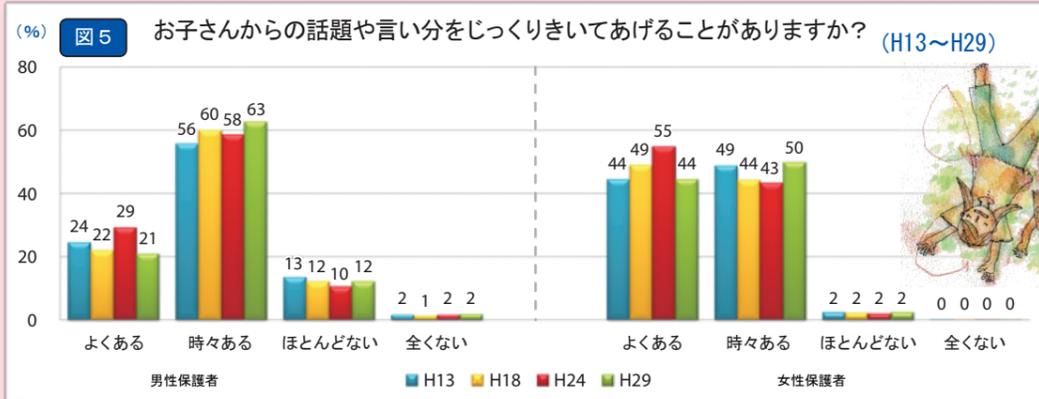
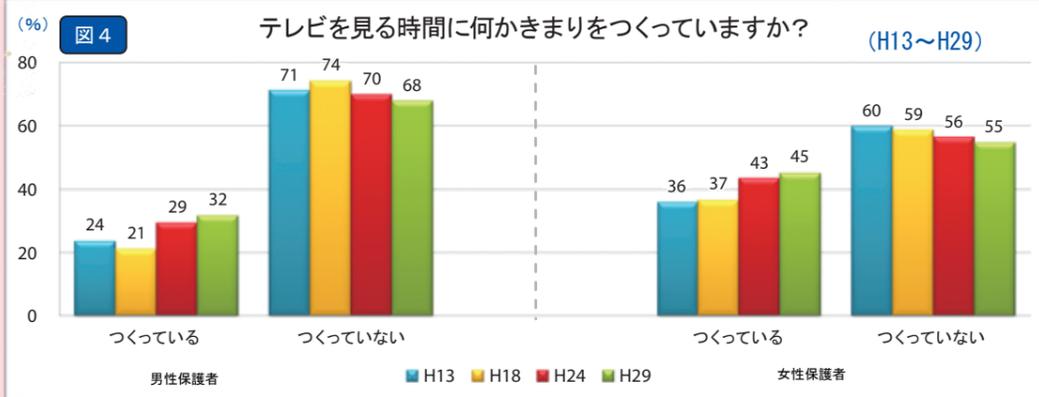
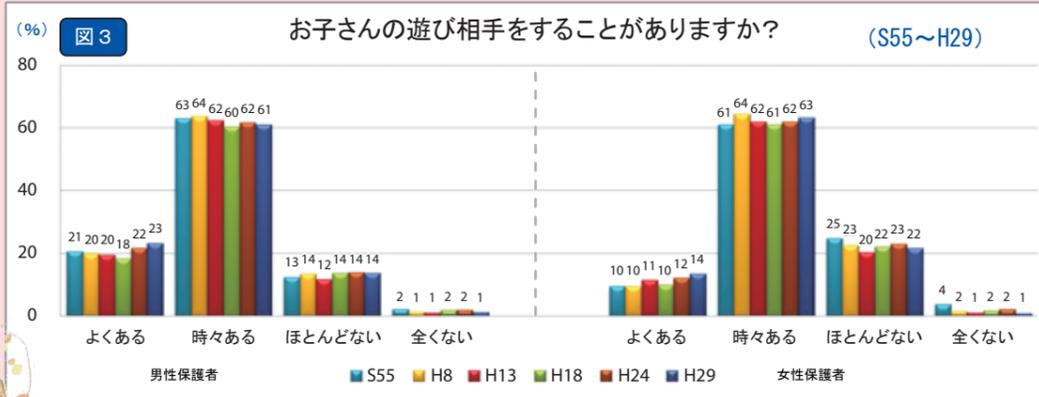
対象者：県下13小学校 全学年の男性保護者、女性保護者
 有効回答数：男性保護者 2,496名
 女性保護者 3,084名
 合計 5,580名
 ※グラフについては、無回答の度数を省略しています。

自立を促すための関わりを大切にしましょう。



◇ 子どもを朝起こす保護者の割合は各学年とも5割程度であり、学年ごとの差も見られません。目覚まし時計を使わせるなど、上級生になるにつれて自分で起きる習慣を身につけられるよう、発達段階や年齢に応じた接し方が必要です。また、はきものをそろえていないときに、「子どもにさせる」という割合が、男性・女性保護者とも前回調査より減少しています。「そのまま」にするという割合は男性保護者で37%に上昇しています。日常生活の中で、子どもの自立を促すための保護者としての関わりを大切にしましょう。

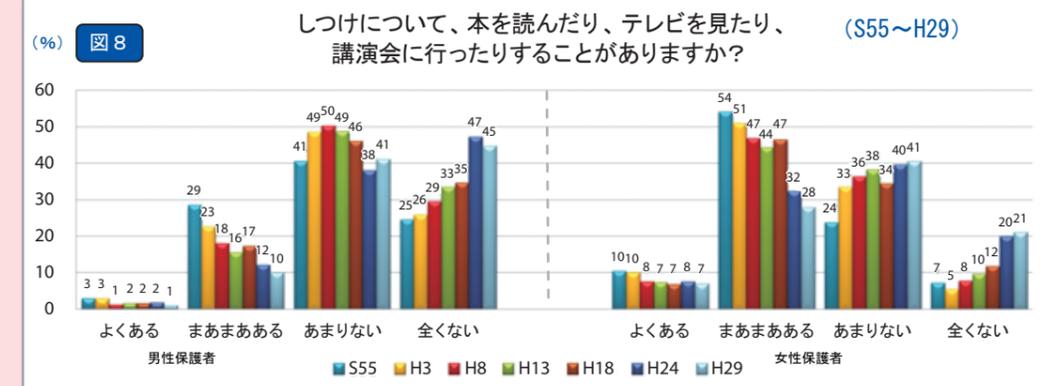
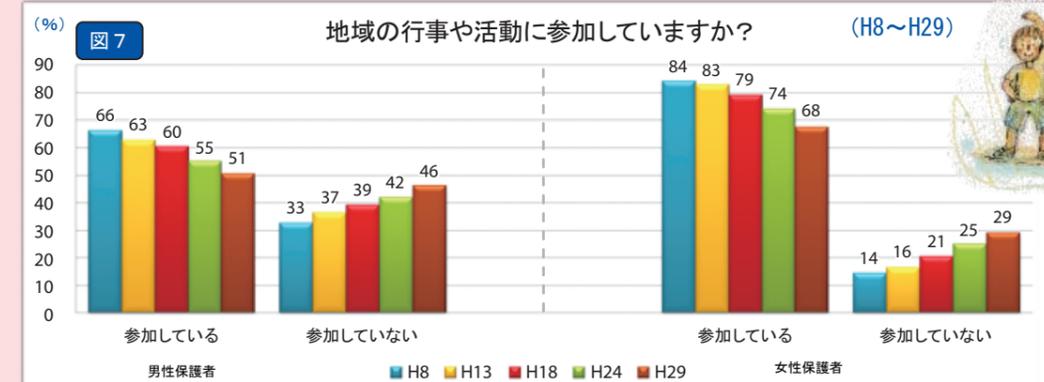
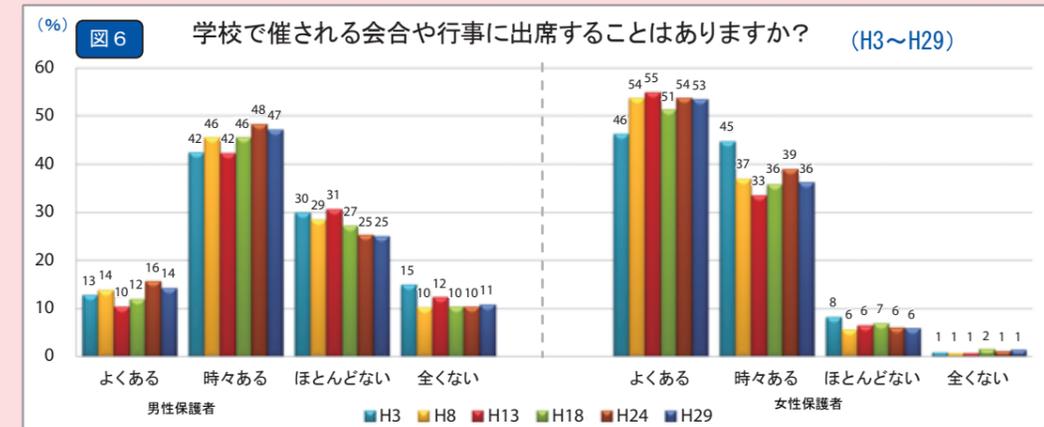
家庭でのコミュニケーションを大切にしましょう。



◇ 子どもの遊び相手となることが「よくある」「時々ある」を合わせた割合は約7~8割であり、調査全体を通して高い割合を維持しています。なかでも、男性保護者の関わりが多く、増加傾向にあります。また、「テレビを見る時間のきまり」については、きまりをつくっている家庭が年々増加しています。きまりをつくるための話合いも大切なコミュニケーションの機会になります。しかし、子どもからの話題や言い分をじっくりきくことが「よくある」保護者の割合は、男性保護者が21%、女性保護者が44%と前回、前回調査に比べ減少傾向がみられました。

生活のあらゆる場面において、子どもの話をじっくり聞き、対話をすることで、子どもの内面に寄り添うことができ、さらに家庭が子どもの安心安全な居場所となります。

保護者が地域と関わって、子どもの地域参加をすすめてみましょう。



◇ 保護者の学校行事等への出席は、前回調査から若干減少傾向にあります。また、PTA活動等学校に関わる実際の活動の中心は女性保護者であることがうかがわれます。

保護者の地域行事や活動への参加は、平成8年度の調査以降、明らかに減少しています。保護者自身が地域で活動しながら地域の教育力を高めると同時に、子どもに対して社会の一員としてのモデルを示す保護者の地域への参画によって、子どもの地域ボランティア体験等の社会体験への拡がりも期待できるでしょう。

保護者の家庭教育に関する学びは、調査全体を通して最も低い結果となっています。今後は、家庭教育について保護者自身が楽しみながら主体的に学んでいくきっかけをつくっていくことが大切となってくるでしょう。学校行事や地域行事等で、保護者同士がつながり、直接対話できるような場づくりを進めていきましょう。